

8月25日「隣人とは誰か!？」ローマ書12:9~21、ルカ福音書10:25~42

「隣人とはだれですか？」イエスさまは律法の専門家、つまり聖書をととてもよく研究している人とのやりとりの中でこんな質問を受けました。今日のテーマはこれです。私たちにあって隣人とは誰なのでしょう？皆さんは、イエス様が私たちに命じられた最も大切な掟を御存じだと思います。「心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。また、隣人を自分のように愛しなさい」この掟は最も重要！聖書の掟はすべてこの掟を完成させるためにある、この掟を守っていれば永遠の命（救い）が得られる、とイエスは教えられました。この掟の「神さま」とは誰のことか、皆さんご存知ですよ。聖書に現された世界を創造し、私たちに命を与え、いつも共にいてくださる、唯一の神さまです。では、「隣人」とはだれでしょう？文字通り捕らえるならば、隣の人。今、皆さんは会堂の座席に着いておられますが、隣人は誰ですか？右隣？左隣？前や後ろにも人はいますし、斜めだとどうでしょう？家に帰れば、隣の家の人がありますね。レストランに行ったり、電車に乗れば全く見知らぬ人が「隣人」になり得ます。隣人を数え上げればきりがありません。その全部を愛するなんて到底出来るはずもないです。

同じようなことを律法の専門家は思ったのかもしれませんが。「隣人とは誰ですか？」とイエス様に問われました。イエス様はこんな例え話で答えられました。「ある人がエルサレムからエリコへ下っていく途中で追いはぎに襲われた。持ち物をすべて奪われて、ボロボロにされたその人はその場へ打ち捨てられました。さて、そこへ3人の人が通りかかりました。最初の人は祭司、この人は神殿で祭儀を執り行う宗教的な権威者です。人々を代表して、神さまに献げ物や祈りを捧げます。祭司は、倒れている人を見かけると道の向こう側を歩いていきました。次に通りかかったのはレビ人です。彼は神殿に仕える下級の祭司で門番や音楽隊などの役割を負っている人でした。彼も倒れている人を見かけると、道の反対側を歩いて行きました。最後に、そこを通りかかったのはサマリア人でした。その人を見ると、近寄って、傷の手当をして、自分のロバに乗せ、宿屋に運び、介抱しました。そして彼の分の宿代をすべて立て替えて、足りなければさらに支払うと約束したのです。さあ、皆さんはこの譬えで誰が追いはぎの襲われた人の隣人になったと思われるのでしょうか？もちろん、サマリア人です。イエス様は、このサマリア人のように「行って同じようにしなさい！」と言われたのです。

この3人の中でサマリア人が他の二人と違っていたのはどこでしょうか？大きく2つあります。1つは、祭司、レビ人は同じユダヤ教徒であったのに、サマリア人は異教徒

であったことです。それも、単なる異教徒ではなく、ユダヤ人とはいつも仲たがいをしている、憎しみ合っているような間柄だったのです。サマリア人とはどういう人達か？サマリア人はユダヤ教から派生したサマリア教団に属する人のことで、現在も数百人規模の信仰共同体が残っています。ユダヤ教がエルサレム神殿を中心としたのに対して、ゲルジム山に異なる神殿を建てていました。ユダヤ人たちは彼らを異教徒との混血が進んだ、穢れた者たちと蔑み、彼らの大切にしている神殿を破壊したこともあります。ユダヤ人とサマリア人は良く似た宗教同士でありながら互いに対立を繰り返してきたのです。ですから、このたとえ話の教える「隣人」とは憎しみ合う「敵」のことだったのです！そしてイエスはそのような憎しみを乗り越えて、困難に陥っている人には手を差し伸べる「愛」を説いたのです。

今日、私たちはもう一箇所、パウロが書いた手紙の一節を読みました。そこにはキリスト者としての生き方の規範、いわばキリスト者生活マニュアルがありました。そこでパウロはこんな風に言っています。

12:19～21 **愛する人たち、自分で復讐せず、神の怒りに任せなさい。『復讐はわたしのすること、わたしが報復する』と主は言われる」と書いてあります。「あなたの敵が飢えていたら食べさせ、渴いていたら飲ませよ。そうすれば、燃える炭火を彼の頭に積むことになる。」悪に負けることなく、善をもって悪に勝ちなさい。**

日本にも「敵に塩を送る」という言葉がありますが、復讐は神さまに任せて自分で復讐を考えてはならない。私たちのなすべきことはむしろ敵が困難な状況に陥っていたなら手を差し伸べることだとパウロは教えます。それが「すべての人と平和に暮らす（18節）」方法だと言うのです。

この譬えのサマリア人が行っていることはそのものだと思います。そしてそれはイエスの直接の教えにも通じています。弟子たちが尋ねました。「イエス様、仲間に嫌なことをされたら何回まで赦すべきですか？7回までですか？」イエスは答えます。マタイ 18：22「七回どころか七の七十倍までも赦しなさい。」これはもちろん490回まで赦せと言う意味ではありません。どこまでも際限なく赦すように弟子たちを諭す言葉です。また、イエス様は言われました。マタイ 5:43「あなたがたも聞いているとおり、『隣人を愛し、敵を憎め』と命じられている。しかし、わたしは言うておく。敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。」

子どものケンカを見ていれば分かりやすいですが、争いのきっかけなんてほんの些細なことです。けれども、やられたらやり返す、報復を繰り返すうちにどんどんエスカレ

ートしてしまいには収集が付かなくなってしまうのです。そうならないためにはどちらか一方が痛みを我慢し、忍耐しなければならぬのです。今、日本がお隣の韓国と「かつてない危機」と言われるほど関係が悪化しています。政府間の報復合戦が止む気配がありません。これを辞めるにはどちらかが、振り上げた手を降ろすしかないでしょう？イエス様はその最初の人になるように私たちに教えるのです。報復は神さまに任せるのです。これがすべての人と平和に暮らすことなのです。これはキリストを信じる者に限らずあらゆるところで普遍的に通ずる愛の原理ではないでしょうか？

サマリア人が他の二人と違っていたことがもう一つあります。「**33節 旅をしていたあるサマリア人は、そばに来ると、その人を見て憐れに思い・・・**」サマリア人だけは、倒れている人を見て「憐れ」に思った、つまり「ああ、ボロボロにされてかわいそうだ」と共感したのです。

このたとえ話、よくよく当時の状況を調べると祭司やレビ人にだって言い分はあるようです。彼らは神殿で働いていました。神殿は聖なる場所ですので穢れを持ち込むことが出来ません。もし、倒れている人がすでに死んでいた場合、彼らが死体に触ってしまったら1週間ほど仕事が出来なくなってしまう（民数記19：11）。また、エルサレムからエリコへの道は追いはぎの多発地帯として知られていました。そこで流行していたのが、襲った者を半殺しにしておいて、その人を助けようと立ち止まった人を更に襲うと言う手口だったそうです。彼らは自分も同じように襲われることを恐れたのかもしれない。

私の以前勤めていた神戸聖愛教会は、新幹線の新神戸駅のすぐ近く、つまり神戸の繁華街の近くにありました。神学生の時には、毎週日曜日の朝に、電車に乗って神戸三宮駅を降りて、繁華街を突っ切って教会へ向かいます。日曜の朝、繁華街にはどういう人が居るかご存知ですか？昨晚飲みまくった酔っ払いです。中には、地面に倒れ込んで眠っている人もいます。私はそういう人達のことをどうしていたか・・・全部無視して教会へと向かっていました。もちろん下手に関わって、揉めたりしたら面倒だからです。でも皆さんもそうでしょうか？皆さんだったら自分のたまりにたまった仕事を1週間犠牲にして倒れている人を気に掛けることが出来るでしょうか？皆さんだったら、自分の身の危険を省みず、倒れている人の介抱が出来るでしょうか？なかなか難しいようにも思います。

けれども、サマリア人は違いました。彼は、自分が面倒だ、という思いを一旦置いておいて、倒れている人に共感し、胸を痛み、助けなければと思ったのです。有名なキン

グ牧師はこの譬えについて、こう言っています。「他の二人は、自分のことを第一に考えたが、サマリア人だけは倒れている人のことを第一に考えた。」

今日のパウロのキリスト者の生き方マニュアルにはこんな言葉もありました。「喜ぶ人と共に喜び、泣く日と共に泣きなさい。」まさに、サマリア人は泣く人と共に泣いたのです。このことはシンプルですが、非常に難しいです。皆さんは他人の成功を羨み、妬み、嫉妬することはないでしょうか？喜ぶ人共に素直に喜ぶのは難しいです。また、泣く人と共に泣くことも本当に難しいです。私たちは他者の痛みには鈍感です。マザーテレサの言葉を思い出します。「愛の反対は憎しみではありません。愛の反対は無関心です」倒れている人を素通りした祭司やレビ人の姿は私たちの姿に似通っています！でも、サマリア人は違った。まず自分のことではなく、まず倒れている人をかわいそうだと共感できた。その感情が、感性が、彼を隣人にしたのです。

さあ、今日のテーマです。「隣人とはだれか？」答えは分かったでしょうか？隣人とはあなたが憎んでやまない敵のことなのです。目の前で困っているのにあなたが素通りしてしまっている他人のことなのです。そしてイエス様は私たちに身内だとか、敵だとかそういった区別を乗り越えなさいと教えられます。困難な状況にある人を無視するのをやめなさいと言われます。そうではなく、他者を愛すること、他者の痛みと共に感ずることを説いたのです。そうやって生きることが私たちがすべての人と平和に生きる道なのです。

今、私たちの生きる社会はどうでしょうか。先日ツイッターで「通勤時間帯にはベビーカーで電車に乗れないようにしろ！」というツイートが大きく広まって賛否両論話題になりました。女性や幼い子ども、高齢者や障害のある人、LGBT、弱い立場にある人達を差別したり、貶める発言がインターネットを通じてすぐに拡散します。隣国、韓国との間には大きな溝が出来、国や地域の指導者たちがさらにそれを助長しています。貧富の格差は開く一方で、貧しい者はどんどん生活が苦しくなります。そんな今だからこそ私たちには愛が必要です！他者の痛みと共に感ずり、憎しみや無関心を乗り越えて一歩踏み出すことが必要です。キリストが教えられた平和の道を歩む努力が必要です。今、私たちは本当にキリストから求められています。キリストの愛を語る一人一人が必要なのです。キリストが教えられたように、共に歩んで行きたいと願います！